

老朽原発 うごかすな! ニュース

第122号

発行・老朽原発うごかすな! 実行委員会

〔連絡先〕 090-1965-7102

3・31老朽原発たちに廃炉! 美浜全国集会に参加して(4)

右翼の妨害にもめげず

美浜の町民とも交流が

「老朽原発ただちに廃炉! 美浜全国集会」地震も事故もまったなし!」に全国から集まった400人の熱気に圧倒されました。当日は、福井市からバスを出して参加者を募りま



会場いっぱいのポテッカーに想いが (林さん提供)

した。3・11さよなら原発福井県集会の後すぐだったため、参加者が増えず心配しましたが、当日には、21名の福井からのバス参加者と自家用車で参加した人、午前の準備から参加した人、敦賀や小浜をはじめ若狭地域から参加した人も含めて福井県から約50名が参加しました。

「老朽原発運転差し止め仮処分」の特別報告の井戸謙一弁護団長からは、劣化の管理点検できない膨大な配管やケーブルがあることの危険性や、能登半島地震の教訓として予知のできない大震災に対応するためにも老朽原発の稼働をすぐ止めること、地震多発地



原子力事業本部前に大横断幕の威力!

帯で原発推進しているのは日本のみと「原発と震源の世界地図」を紹介した訴えが胸に響きました。大阪高裁と福井

地裁でたたかってきた申し立て人もステージに立ち即時抗告をはじめ今後またたかい続けることを表明。珠洲原発建設阻止の運動を担った北野進さんの「能登半島地震」報告も衝撃で、珠洲に原発を建てさせなくてよかったと再認識。ステージ上で「さよなら原発福井県集会 能登半島支援募金」を北野さんに贈呈できてよかったです。

「あぶない老朽美浜3号をとめよう!」との参加者の熱い思いが28万円を超える集会カンパに結実したと思います。集会後のデモ行進と関西電力

原子力事業本部前集会・申し入れは、右翼街宣車の執拗な妨害活動にめげず、逆に闘志を掻き立てられ、デモ参加者が言葉で反撃しました。一番うれしかったことは、デモ行進中に美浜町民の方が「がんばってください」と手をふって応援してくださったことです。今後も、立地住民と心を一つに老朽原発がなくなるように世論と運動を広げていきたいと思いました。みなさん本当にありがとうございました。

(オール福井反原発連絡会 林 広員)

3・31老朽原発ただちに廃炉! 美浜全国集会に参加して(5)

能登半島地震からわずか3カ月

この熱気を、能登にどういっせいで

能登半島震災から、まだたった3カ月。原発再稼働の動きは弱まるどころか、ますますその勢いを強めている。

その一方で、この間日本の各地で震度3、4を越す地震が毎週のように発生し、この

4月3日には台湾でも大きな地震があった。人々の不安は増すばかりだ。

それなのに、本来行政からは独立して存在しているはずの裁判所が、3件の老朽原発差し止めを認めず、住民側に



能登の現状を話す北野進さん

敗訴を言い渡した。こんな理不尽なことがまかり通っているわけがない。こんな時こそ声を上げなくてはならない。それが、3月31日の集会に集まった人々の共通の思いだったに違いない。会場内は熱気であふれていた。

集会後のデモ行進の際、関西電力の美浜原子力事業本館前で右翼の街宣車数台が、大音量でがなり立てて挑発してきた。彼らの目的は、反対運動が迷惑な右翼街宣や交通渋滞を招いていると住民に知らせ、住民と反対運動を分断することにあり。いつものやり口だ。しかし、この右翼の到来こそは、間違いない参加の熱気が招き寄せたものなのだ。右翼たちが喚き散らす「雑音」を聞いていて思った。今の推進側の言葉や「丁寧な」説明

は、電力会社のもものも、規制委のものも、IAEAのものも、それぞれスタイルが違うだけで、内容にまったく深みもなければ、人々への誠実さのかけらもないという点では、右翼どもと似たり寄ったりなのではないかということ。言葉の発信量や媒体の豊富さではとても彼らにかなわない。しかし彼らは、ただ人々の漠然とした不安感に乗じているに過ぎないので。

では私たちの言葉は、どれほど人々に届いているのだろうか？この熱気をどう伝えればいいのだろうか？私たちは、私たちの言葉をもう一度大切にしなければならぬと思った。この集会の熱気を能登の運動にどうつなげていったらいいのか？余韻に押されるようにして帰路に付いた。

(命のネットワーク
藤岡彰弘)

3・31老朽原発だちに廃炉！美浜全国集会に参加して(6)

憤りの声が満ちていたバス 震源地になりうる所に立ち並ぶ原発

毎月の19行動のデモで出会った老朽原発うごかすな！実行委員会のメンバーの方に「今度の美浜3号運転差し止め仮処分裁判では絶対勝つと思う」と声を掛けられ「能登大地震の現実を見たら余っ程のことがない限り絶対勝つ、誰が考えても」と答えた私でしたが、その裁判の判決で何とヨッポドの判決が。

珠洲原発が住民の人達の反対運動で造られなかったことは感謝しかない。志賀原発の場合は出されてくるトラブル情報が本当かどうかは疑わしいが、停止中だったため、辛うじて最悪の事態が回避されたのは周知の通り。報道される現地の状況を見れば、一旦事故が起これば能登半島の多くの住民は見殺しになるだろ

うことは簡単に想像がつく。勝利の喜びを抱えて参加するはずだった3月31日開催の「老朽原発だちに廃炉！美浜全国集会」行きのバスの中は憤りの声に満ちていた。九州をはじめ各地から駆け付けた参加者で、久しぶりの大型バスも満席。車内でマイクを握る口々に、怒りや悔しさを滲ませながらも更に強固な闘いを、と語り合った。

集会は400人超えの多くの参加があり井戸弁護士のご報告、中でも世界地図に落とされた原発立地と地震の震源地を示す表には言葉を失うほどの衝撃だった。韓国や中国は比較的震源は少なく、それでも原発は震源地からは外れており、ヨーロッパでも震源地付近には作られていない。引き換え日本中が震源地になりうる所にびっしりと立ち並ぶ原発。怖気たつ。反原発の先頭で闘われる井戸弁護士の言葉は解り易く胸に落ちる。

もう一人の報告は珠洲原発設置の反対運動を闘い断念させた北野進さん。能登半島地

震後の現地の様子を写されたが、テレビで見るとはるかに被害は大きい様子。なぜ反対運動が成功したのか、その話をもう少し聞きたかった。

(ふえみん・京都
篠田 美津代)

会場から出てきたデモの第2グループ

